

6次産業化商品の開発支援

ねらい

「六次産業化研究施設」を活用した加工研修会の開催や、オープンラボ機能を活用した試作研究への支援など、農業者の6次産業化商品の開発を実践的に支援します。

6次産業化や農商工連携によるビジネスモデルを創出し、農業者の所得向上を図ります。

活動地域・対象

地域：県下全域

対象：6次産業化実践農業者及び志向農業者

普及活動の目標

県産農産物を使った商品開発：6品目

加工品の売上げ5%アップ：2経営体

目標に向けた活動概要

1 「六次産業化研究施設」を活用した商品開発支援

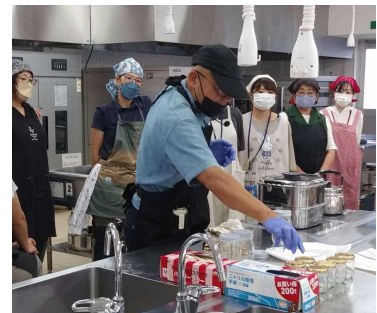
○食品加工研修会の開催

食品加工のコンサルタント、食品製造事業者等の専門家を講師に招き、研修会を開催し、農業者の加工技術の習得・向上を支援しました。コロナ禍では、オンライン形式で研修会を行い、農業者の学びの場が途切れることのないように工夫をしました。

令和2年度：「野菜のペースト加工と保存方法」他 全4回

令和3年度：「グルテンフリーの米粉パン」他 全3回

令和4年度：「HACCPに基づいた農産加工」他 全4回



R4 HACCP研修会

○県産農産物の加工品及び用途開発

施設のオープンラボ機能を活用し、農産物の一次加工（ペースト、粉末等）、乾燥野菜、ドライフルーツ、アイスクリーム、ドレッシングといった様々な試作品づくりを支援しました。

令和2年度：21件、延べ19回

令和3年度：29件、延べ23回

令和4年度：18件、延べ29回（R4.12.8時点）



R4 もものドライフルーツ試作

2 加工商品開発に取り組む生産者組織等の支援

加工グループやJA女性部等の活動状況を農業支援センター、関係機関（とくしま産業振興機構等）と連携して巡回指導を行い、課題や今後の支援方策について関係機関と共有し連携して支援を行いました。また、実需者の声を反映した商品開発ができるよう、求評会等への参加を促しました。

普及活動の成果

1 「六次産業化研究施設」を活用し開発された商品

地域農産物を使った様々な加工品が商品化され、JA直売所、地元の道の駅等での販売に結びつきました。農業者は、商品開発を行うことで、商品の美味しさだけではなく、原材料である農作物の栽培の特徴、産地の強み等についても深く考えることができ、自身の農業全体をブランディングする視点を持つことができました。

求評会等で専門家から意見をもらう機会を設けることで、商品化後も衛生面や効率を高めるための作業工程の見直しや、商品の改良、新商品の考案など、取り組みの発展が続いています。

また、商品開発に取り組む過程で、同じ志を持つ農業者同士のつながりが生まれ、仲間づくりもできました。



令和2～4年度に開発された商品の一例



農業者同士の交流

2 加工商品開発に取り組む生産者組織等の育成

農業支援センター等との巡回指導の中で、近年、食品衛生法の改正、食品表示法の施行など、加工品に関係する法令の動きが大きくなっている中、加工品づくりを行うグループや農業者は対応に不安を感じていることがわかりました。そこで、農業支援センター、JA、市町村、県の食品衛生法を所管する部局が連携し、各地域でも「食品衛生」をテーマとする研修会を開催しました。

日々の巡回指導の中で、加工商品開発に関するニーズをしっかりと把握し、適切な情報を農業者に届けることが、6次産業化の取組の活性化につながります。



支援センターと連携した巡回指導

用語説明	食品衛生法の改正：食を取り巻く環境の変化や国際化などに対応し、平成31年4月から令和3年6月にかけて7つの改正が施行されている。 食品表示法：食品衛生法、JAS法、健康増進法の食品表示に関する部分を一元化した法律。
------	--

今後の発展方向

6次産業化は、農業者の所得と本県農産物のブランド力向上のため貴重な取り組みであることから、今後も農業者等の魅力あふれる6次産業化を支援します。

関係者からの声

「六次産業化研究施設」のオープンラボを活用することができ、商品開発に向けての第一歩を踏み出すことができた。（6次産業化志向農業者）

高度技術支援課

徳島県名西郡石井町石井字石井1660

tel：088-674-1922